

玉垂

たまだれ
No.48



宮川沿いの新たな紅葉撮影スポット（平成28年11月20日）

<http://www.okunijinja.or.jp>

年の瀬を迎えて

季節の巡りは早いもので、今季も多くの皆様に当社の紅葉をお楽しみ戴きました。本年の色づきは非常に美しく、ご神域の至る所で感嘆の声が聞えて参りました。また、昨年十月に大沼建設株式会社様、有限会社一十園様のご奉納により宮川沿いに設置された石橋と自然が描く極上の色彩に染まったもみじとの共演に目を奪われ、立ち止まる方が多く見受けられました。毎年の事ながら、神々が運ぶ季節の移ろいが見せる自然の深遠さに心を打たれます。

さて、本年八月八日午後三時、畏くも天皇陛下におかれましては、ビデオメッセージにて「象徴としてのお務めについて」の「お言葉」を国民に向けて直接述べられました。全身全霊をもって象徴のお務めを果たしてこられたお姿に多くの国民が感動し、信頼と敬愛の念を抱いたことと存じます。

我が国は建国以来、天皇を中心として歴史を紡ぎ、伝統文化を築いてきました。そして、天皇は「祈りのご存在」としていつの時代も変わることなく神々へ感謝の誠を捧げ、国家、国民の安寧と幸福を願い続けておられます。この「祈り」の深くして重い本質は、毎年十一月二十三日に宮中の神嘉殿に於いて執り行われる新嘗祭に代表される「宮中祭祀」に高貴な精神が継承されています。改めて陛下のお言葉を拝しますと、「何よりもまず国民の安寧と幸せを祈ることを大切に考えて来ました」と述べておられます。「伝統的な祭祀の祈り」を最も神聖な天皇のお務めとして何よりも優先しておられるご姿勢が明確に伺えます。

一方、この度のお言葉を受け、すでに多くの有識者より様々な意見が交わされています。これらの議論の中心には、日本国の礎となる「精神文化」をどのように護り伝えてゆくかを熟慮し、皇統の尊厳護持と神聖性の保持、そして安定的な継承を十分に配慮したものでなければなりません。

聖寿の万歳、皇室の弥栄を壽ぎ奉り、国の隆昌と世界の平和、そして氏子崇敬者各位のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

新嘗祭の齋行・奉納農産物品評会の表彰

境内の紅葉が見頃を迎え、大勢の参拝者で賑わう十一月二十三日(水)に新嘗祭を齋行いたしました。
氏子の皆様方よりご奉納いただきました農産物をご神前にお供えし、今年一年の豊かな稔りと諸産業の発展に感謝いたしました。

また、毎年恒例の小國神社振興会主催による「奉納農産物品評会」を拜殿前にて開催いたしました。

本年で六十回目を迎える品評会は、台風や季節外れの長雨による作物への影響が心配されましたが、二五四点もの奉納をいただき、新嘗祭齋行後の即売会にて大盛況のうちに完売となりました。

ここに品評会にて受賞された方々へ、ご報告させていただきますとともに、ご協力いただきました皆様方に篤く御礼申し上げます。

〈協力賞〉

- 第一位 牛 飼部農会
- 第二位 円田上部農会
- 第三位 上川原部農会
- 第四位 中川上部農会
- 第五位 橋 部農会

〈小國神社賞〉

- 米 中川上 鈴木 定男
- 二(た)く(く) 円田下 北島 恵介
- 白菜 中川上 本多 利吉
- 治郎柿 谷 中 井口 始
- 茶 中川上 本多 利吉
- 〈遠州中央農業協同組合代表理事 専長賞〉
- 米 中川上 伊藤 忠男
- 大根 片瀬 毛利 正雄
- 生姜 宮代東 松尾 貞子
- キヤベツ 宮代東 松尾 貞子
- メロン 米倉 今村 芳信



豊栄舞の奉奏 (11月23日)



新嘗祭 宮司玉串を奉りて拝礼 (11月23日)

- 〈小國神社振興会賞〉
- 米 円田上 鈴木 伸明
- 人参 中川上 伊藤 忠敏
- レタス 大久保 山下 義則
- レモン 橋 松田 信男
- 椎茸 宮代東 松尾 貞子
- 米 中川上 石黒 朔郎
- 里芋 赤 根 鈴木 和利
- かぶ 円田下 鈴木 正則
- ワケギ 米倉 山出 博司
- キウイ 牛 飼 村松伊佐雄
- 特別賞 宮代東 松尾 貞子 (敬称略)
- 十四点出品

篤志奉納者へ感謝状の贈呈

十一月二十三日の新嘗祭齋行後、拜殿におきまして篤志奉納者の皆様へ感謝状と記念品の贈呈をいたしました。

ご奉納いただきました皆様のご芳名を掲載し、改めて篤く御礼申し上げます。

- 伊藤 晃
- 鈴木 政春
- 山崎電気工事
- 棍谷 雅春・棍谷 静江
- 大場喜久司
- 浜名梱包輸送株式会社
- 株式会社久米吉 猛
- 代表取締役 倉島 正三
- 代表取締役 小林 健
- 有限会社一十園
- 栗原 幸彦
- 絵画一幅「小國神社」
- 黒松
- 社長 鈴木 政之
- 兼子 弘史・兼子 なおき
- 小國神社敬神婦人会 (順不同・敬称略)



(株)庭政様による黒松の奉納 (5月18日)

(株)久米吉様による猫足六角釣燈籠ご奉納

九月四日、(株)久米吉の倉島正三・良枝ご夫妻より、青銅製金箔張りの猫足六角釣燈籠二基をご奉納頂きました。

ご奉納頂いた釣燈籠はご神前に最も近い大床の庇下に取り付けいたしました。

当社では、「明治十九年九月吉日」銘の社殿再建時に奉納された釣燈籠を所蔵しておりますが、劣化が激しく永きに亘り献灯が叶いませんでした。

この度のご奉納により、大前に再び浄火を献灯できましたことを深く感謝いたしますとともに、小國大神様のご神慮をいただき、益々のご健勝とお栄えをお祈り申し上げます。



御本殿大床に献灯となった釣燈籠(8月7日)



ご参列の皆さま 森町長 太田康雄様(中央)(9月11日)

【社】周智茶手揉保存会「倉開流の碑」除幕式

九月十一日、森町長太田康雄様を始め、関係者ご参列の元、厳粛に除幕式を執り行いました。

この碑は、当社の例祭にて周智茶手揉保存会の皆さまが、大前に倉開流手揉茶を奉献されてより六十年の佳節迎えたことを記念し境内に建立されました。

倉開流の技法は、茶師橋山倉吉により明治時代に創案された製茶法です。現在では森、春野地域にのみ伝わり、その技術は静岡県指定無形民俗文化財としても登録され高く評価されています。

今後とも大神様のご加護をいただき、倉開流手揉茶の技法が未永く後世に伝承されますよう心よりお祈り申し上げます。



新しいご当地土産「遠江国うさぎの恩返し」

ご参拝のお土産に「遠江国うさぎの恩返し」のご紹介

うさぎの姿をかたどり、静岡のお茶を練り込んだ可愛らしいお饅頭「遠江国うさぎの恩返し」が発売になりました。

ご祭神大己貴命は神話において傷ついた白うさぎを助けた心の優しい神様として記されています。

神話の続きでは、傷の癒えた白うさぎが大己貴命へ「美しい女神さまと契りを結ぶでしょう」と予言し、その通りに目出度く結ばれました。

不思議な力で恩返しをした白うさぎに因んだ、日頃の感謝の気持ちを伝えるお土産です。

小國ことまち横丁、ファミリーマート森町宮の市店、新東名遠州森町上りPA、東名牧之原下りSAなどでお求められます。



講師 塚本こなみ先生 演題「木の心、木の命」

第七期 第二回「遠州とこわか塾」の開催

「遠州とこわか塾」第七期第一回を十月二十三日(日)に開催いたしました。

講師には、日本初の女性樹木医で(株)浜松市花みどり振興財団・はままつフラワーパーク理事長塚本こなみ先生をお招きし、ご講話を賜りました。

先生は、常に木々に真心を寄せ、木の心と命に真摯に耳を傾けることで様々な角度から園の改善点を見つけたし、経営難にあったはままつフラワーパークを卓越した手腕で再生されました。

その再生手法の原点は、山川草木全てに命が宿り、偉大な自然に神々を感じ、感謝と畏敬の念をもって自然と共生する姿勢でした。

塾生一同、熱心に拝聴していました。



多くの参拝者で賑わう会場 (5月29日)

「もりもりまーけつと i n 小國神社」の開催

五月二十九日、当社第三駐車場にて「もりもりまーけつと i n 小國神社」が開催されました。このイベントは、森町で土屋製菓を営む今泉京子さんから森町出身の若者が中心となり、森町の活性化に向けて始められたもので、今回で四回目の開催となります。

当日早朝、実行委員会と出店者は正式参拝を行い、日々の感謝ともりもりまーけつとの成功をお祈りし、イベントが開始となりました。

会場では、可愛らしい雑貨や和菓子、有機栽培のピーナッツバターの販売、アロマテラピーの専門店などのこだわりの店舗が多数並び大変な賑わいを見せていました。

第五回神社検定を受検して

(有)静岡木工 代表取締役
杉本かつ行



私は、静岡県榛原郡吉田町で神棚を奉製する会社を営んでおります。今から四年前の六月に三十三歳で後継者として会社を背負うようになり、改めて自身が行なうべき仕事について様々に思いを巡らせておりました。

全国的な少子高齢化や地方過疎化などの影響を受けて、親から子へ伝えられてきた「家庭のおまつり」や「季節の行事」の継承が希薄化し、「自然の恵みに感謝する気持ち」や「何気ない日々」に感謝する「気持ち」をどこかに置き忘れてきてしまっているのではないかと感じるようになりました。

私どものお店にお越しになるお客様との会話で一番に感じることは、家庭や会社でのおまつりを大切にしている方は、日々「感謝し前向きに生きている方ばかりであるという事です。このような「神さまを身近に感じ、晴れやかな気持ちで日々を送ることの素晴らしさ」を広く伝えたいと強く思うようになりました。しかし、製品としての神棚の知識はあってもいざ、神さまや神社についての知識を問われるとあまりに身近すぎて答えに窮することが多々ありました。「これでは何も伝えられない」と焦りを感じていました。

このような折り、小國神社様に「神社検定」をご紹介頂き、会社の従業員を誘って検定を受けることにしました。

早速、公式テキストを手に入れて皆で問題を出し合いながら楽しく勉強を始めました。今まで身近すぎて気がつかなかった日本人の豊かな感性の根底にある神道の考え方を深く知り、改めて日本の素晴らしさに気がつきました。また、従業員も日本文化の継承に携わる者としての自覚を高め、仕事に自信を持つようになりました。

今後は検定で得た知識を活かし、日本の美しい国柄である「神まつり」の大切さを多くの人々に伝え、次世代に受け継がれるような神棚の奉製を通して社会に貢献していきたいと思っております。



(有)静岡木工のスタッフの皆さま (6月26日)

新規採用教員体験研修の実施

八月八日(月)に掛川工業高校地歴公民科教員、木村穂野先生の体験研修を実施しました。

当社のご鎮座の由来を始め、古典「古事記」をテキストに自然を敬い、神々へ感謝する日本古来の考え方と道徳観についての講義をいたしました。「古事記」は神代から続く我が国の成り立ちや先人より受け継いできた大らかな感性の源流が記された貴重な書物です。今後の授業作りなどに役に立つことと存じます。木村先生におかれましては、本研修で体験した日本の心を大切に益々のご活躍をお祈り申し上げます。



県立掛川工業高校 木村 穂野先生(中央)(9月24日)



宮代神饌田 抜穂祭 (10月1日)



太田辰美氏撮影野鳥写真「ヒヨドリ」



神社総代会周智支部森町分会 祭式研修会の開催 (9月23日)

第二回 小國神社と人と暮らしとかみのたな展の開催

(有)静岡木工主催「小國神社と人と暮らしとかみのたな展」が十一月十九日(土)から十一月二十七日(日)までの日程で休憩所二階特別展示室にて開催されました。

当社境内の神杉を使い奉製された、神杉の木霊^{カミタマ}や、二〇一六年グッドデザイン賞受賞の、かみさまのおみや／まるた^{カミタマ}などが展示され、近年主流となりつつある現代の建築様式にも馴染む「神だな」や「神具」などに多くの関心が寄せられていました。

特別展示では、日本人の心の源流「新嘗祭」をメインテーマに様々な展示も行われました。

また、神だなに新米をお供えした後に、ご家族でお下がりをお召し上がりいただけるように、森町産の美味しい新米を神饌米としておわけいたしました。期間中は、約二〇〇〇人が訪れ、大変な賑わいとなりました。



グッドデザイン賞受賞の神だな



森町産の神饌米 (11月23日)



豊富な種類の神だなと神具 (11月23日)

小國神社振興会前幹事 筒井誠司様「はぐるま」若年性アルツハイマーの妻と私出版

この度、小國神社振興会前幹事、ご例祭の神輿役、福神像頒布の世話人として三十年の永きに亘りご奉仕された筒井誠司様が、若年性アルツハイマーを患ったご夫人との闘病生活を記した体験記を全国出版されました。

本書は、近年社会問題として大きく注目される認知症患者への介護問題を実際の厳しい介護経験をもとにリアルティー溢れる文体で書き記されています。

介護問題は高齢化社会に生きる私たちが直面する重大な問題の一つです。多くの皆さまに本書をご一読され、若年性アルツハイマーへの理解、介護問題への見識を深めていただきたく存じます。



ご夫婦の闘病生活の軌跡「はぐるま」

小國神社敬神婦人会研修会の開催

平成二十八年九月十八日(日)午前十時より敬神婦人会研修会が開催され、会員五十一名が参加しました。一同は月次祭に参列後大宝殿にて、戦歿者慰霊についての研修が行なわれました。

今日の我が国の繁栄は先の大戦による多くの戦歿者の礎の上に築かれました。それぞれの家庭において、英霊に感謝する気持ちを語り継いでいくことが何よりも大切なこととなります。

講話後は、この度ご奉納いただいた大型絵巻「小國神社ものがたり」の上演が行われ、親しみやすく描かれた大神様の物語に会員一同、自然と笑みがこぼれました。

研修会は毎年九月に行われます。会員皆様のご参加をお待ちしております。



「小國神社ものがたり」についての説明を受ける会員の皆さま (9月18日)

遠江国二宮 小國神社

「大骨董蚤の市」の開催

平成二十八年十一月五日・六日の二日間にかけて、当社第五駐車場にて「第十三回大骨董蚤の市」が開催されました。当日は約五十店舗が出店し、早朝より県内外から多くの来場者で賑わいました。

店先には様々なアンティーク品が並び、訪れた人々は一つ一つの品を吟味しながらお気に入りの逸品を探していました。朝早くに会場を訪れると、意外な掘り出し物が見つかるかも知れません。

毎月の第一土曜日・日曜日に開催されますので、皆様のご来場をお待ちしております。詳しくは当社ホームページをご覧ください。



骨董商との会話を楽しむ来場者 (11月6日)

「諸芸上達守り」のご紹介

当社では、森町出身で京都在住の日本を代表する書家で当社の崇敬者でもあられる、杭迫柏樹先生の揮毫による文芸、武芸、技芸に携わる様々な人々を守護する「諸芸上達守り」を授与しております。

大神様は古事記や日本書紀にも記されるように人々に知識や文化を授けた神様として今日まで篤く信仰されています。

大神様のお力が宿った書の妙手の揮毫による縁起の良いお守りをお受けになり、ご加護をより身近に感じていただきたくご紹介いたします。



杭迫柏樹先生の揮毫による「諸芸上達守り」

師走の大祓式

十二月三十一日(土)午後三時より師走の大祓式を執り行います。大祓式は日常生活の中で知らず知らずのうちに犯した罪や過ち、心身の穢れを人形に託して川や海に流し、祓い清める神事です。古来より、清浄を大切にしていた日本人の慣わしです。

大祓式はどなたでもご参列していただけます。社務所にて申込用紙と人形をお頒ちいたしますので、ご希望の方はお申し出下さい。当日は、大祓式に引き続き一年の無事平穏を感謝し佳き年を迎えることができるようにお祈りする除夜祭を執り行います。

一年の罪穢れを祓い、身も心も清々しい気持ちで新年をお迎え下さい。



「祓物」で祓い清める人々(平成27年12月31日)

古代の森シリーズ 48

―修祓―

修祓は祓いによって心身を清浄にする神事です。まず神職がご神前で祓詞を奏上し、次に大麻で参列者の罪穢れを祓います。さらに塩湯を使って祓う場合もあります。

いわゆる「神教的な価値観では、「人は生まれながらにして罪を背負っている」という「原罪」の觀念がありますが、神道では修祓により心身が清められ「神様より授かった最も無垢な状態」に還る事が出来ます。

また、全ての祭典・ご祈祷では必ず修祓を行ない、清らかな状態になってからご神前に進みます。

修祓は短時間の行事ですが、神道における根幹を司る重要な神事です。



祭典に先立ちお祓いを受ける参列者(2月18日 祈年祭)

まつり歳時記

十二月～三月

十二月 師走

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 八日 甲子祭 (午前九時)
- 十七日 鎮火祭 (午後三時半)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 十八日 滝宮社例祭 (午前十時)
- 十八日 初穂献納祭 (午前十一時半)
- 二十三日 天長祭 (午前九時)
- 二十五日 煤払祭 (午後一時)
- 三十一日 大祓式・除夜祭 (午後三時)

一月 睦月

- 一日 初祈禱祭 (午前零時)
- 一日 歳旦祭 (午前三時)
- 二日 日供始祭 (午前八時)
- 三日 元始祭・追難祭 (午前八時)
- 三日 田遊祭 (午後一時)
- 六日 本宮山例祭 (午前十時)
- 七日 昭和天皇祭遙拝式 (午前八時)
- 七日 神明宮参拝 (午前九時)
- 十一日 手新始祭 (午前八時)
- 十四日 寒の丑日水汲祭 (午前二時)
- 十五日 どんど焼祭 (午前九時)
- 十七日 八王子社例祭 (午前九時)
- 十七日 御弓始祭 (午前十時)
- 十八日 月次祭 (午前九時)
- 二十日 二月三日 厄除大祭

二月 如月

- 一日 月次祭 (午前九時)
- 三日 節分祭世話人祈禱祭 (午前十一時)
- 三日 節分祭 (午後二時)
- 六日 初甲子祭 (午前九時)
- 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
- 十一日 紀元祭 (午前十時半)
- 十五日 養社聖子社山榎祭 (午前九時)
- 十五日 塩井神社例祭 (午前十時)
- 十八日 祈年祭 (午前十時)

三月 弥生

- 一日 月次祭 (午前九時)
 - 六日 本宮山月次祭 (午前十時)
 - 十七日 真田城趾慰霊祭 (午前十時半)
 - 十七日 鉾執社例祭 (午後一時半)
 - 十八日 月次祭 (午前九時)
 - 二十日 春季皇霊祭遙拝式 (午前八時)
- 〔例祭日程のお知らせ〕
- 四月 十五日 献詠祭 (午前九時)
 - 十五日 氏子入奉告祭
 - 十五日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十五日 舞楽奉奏 (午後二時)
 - 十六日 舞楽奉奏 (午前十一時)
 - 十六日 神幸祭 (午後二時)
 - 十七日 前日祭 (午前十時)
 - 十八日 例祭 (午前十時)

新春祈禱のご案内

平成二十九年の新春祈禱のご予約を承ります。

当日の団体受付は大変な混雑が予想されますので、年内の予約受付をお申込み下さい。当日の円滑なご案内が可能となります。

- 一、予約対象 法人・会社・諸団体
- 一、申込方法 ・個人事業者
申込用紙を送付いたしますので、係までお問い合わせ下さい。
- 一、備考 祈願内容・申込みについてはご質問などは係までお問い合わせください



五穀豊穡と疫神鎮送を祈願する御弓始祭(平成28年1月17日)



恒例のどんど焼き (平成29年は1月15日に斎行)



諸業繁栄の大國だるま 元旦より授与

小國神社 新春祈禱予約係

(小國・森越)

TEL 〇五三八一八九一七三〇二
FAX 〇五三八一八九一七三六七

人生の節目の年にあたる厄年は、健康、仕事、私生活などあらゆる面で難を招きやすい年頃といわれ、誰もが健康で充実した人生を無事送りたいと願う気持ちちは昔も今も変わりません。



小國神社では、一月二十日より二月三日まで厄除大祭を執り行います。厄年のお祓いをはじめ八方塞がり・黒星・災厄除等諸々のご祈禱をご奉仕申し上げます。

健康で充実した人生を願って

厄除大祭

1月20日(金)～2月3日(金)

厄年とは何ですか

厄年とは古くから日本に伝わる考え方です。身の回りの凶事・体調不良など、様々な難を招きやすい年とされます。男性は二十五歳・四十二歳・六十一歳、女性は十九歳・三十三歳・三十七歳が厄年とされ、その前後の年齢を「前厄」「後厄」と言います。

これらの年は神事で重要な役目を担う風習があったことから、神祭りの「役(やく)」が厄年の語源であるとも言われ、神さまに失礼のないよう慎重に、心身を清浄にするため、ご祈禱を受けたいのが厄除のはじまりとも考えられます。全国的にはお正月から節分までに神社で厄除のご祈禱を受けます。

厄年の過ごし方

厄年は、人生の節目を大切にしたい生活の知恵や教訓が込められています。身体の変調期や生活環境の変わり目にあたり、体調を崩しやすいときに重なります。厄除祈禱の際に授与されたお神札をおまつりし、お守りを身近に持つなどした上で、健康に留意し、慎重を持って生活することが大切です。無事に年を重ねたことの喜びを噛みしめ、神々に「生かされて」いることを感じ、日々の家庭のおまつりを通して清々しい心で生活したいものです。



遠江國一宮 小國神社

「心の安らぎ」と「鎮守の杜」

神社にお参りをすると心が清々しくなります。日々の暮らしでは様々な厄災があり、とりわけ今日では、現代社会の歪みからくる事件・事故など凶事も多くなり、心の荒廃など精神を病むことも増えつつあります。

日本人の多くは、お正月を始め節目には必ず神社をお参りし、神様に守られ導かれていくことへの感謝と日々の健康などを祈ってききました。鳥居をくぐり手水舎にて手と口をすすぎ、玉砂利を踏みしめてご神前に向かう間に、心身を清められていきまします。心の環境をも整える場所が、「鎮守の杜」という癒しの空間なのです。

「年」を大切にしてきた日本人

私たちは人生の様々な節目の「年」を大切にしてきました。初宮詣・七五三詣・成人式・還暦や米寿の「年祝い」など、人生儀礼のお祝いを行ってきました。

人生は山あり谷あり様々な厄災があり、それら乗り越えてゆくことの難しさを日々の生活から学びます。だからこそ、私たちの祖先は一日一日を大切に、「年」を重ねる喜びと、神々に「生かされている」ことへの感謝を忘れませんでした。



限定授与品 破魔弓矢 初穂料二、〇〇〇円也

厄年 平成29年

	男 性		女 性	
	年	歳	年	歳
前厄	昭和33年	60歳	昭和57年	36歳
	昭和52年	41歳	昭和61年	32歳
	平成6年	24歳	平成12年	18歳
本厄	昭和32年	61歳	昭和56年	37歳
	昭和51年	42歳	昭和60年	33歳
後厄	平成5年	25歳	平成11年	19歳
	昭和31年	62歳	昭和55年	38歳
	昭和50年	43歳	昭和59年	34歳
	平成4年	26歳	平成10年	20歳

◆ 折禱料五、〇〇〇円より

◆ 厄除大祭神札及びお守を授与いたします。

◆ 折禱受付午前九時～午後四時

厄年	年齢	厄年	年齢
昭和29年	64歳	平成2年	28歳
昭和38年	55歳	平成11年	19歳
昭和47年	46歳	平成20年	10歳
昭和56年	37歳		

【白木皇生奉祀の方】

厄年	年齢	厄年	年齢
昭和24年	69歳	昭和60年	33歳
昭和33年	60歳	平成6年	24歳
昭和42年	51歳	平成15年	15歳
昭和51年	42歳		

【黒星 六白皇生奉祀の方】

厄年	年齢	厄年	年齢
昭和24年	69歳	昭和60年	33歳
昭和33年	60歳	平成6年	24歳
昭和42年	51歳	平成15年	15歳
昭和51年	42歳		

※年齢は数え年です。

URL <http://www.okunijinja.or.jp/>

「小國の杜」点描



賑わいの七五三詣
寺田侑生君(森町)・浅海愛莉ちゃん(袋井市)(11月10日)



神道政治連盟四役会の開催 (10月5日)



巫女祭祀舞研修会 講師 稲葉悦子先生(右)(7月26日)



森町立宮園小学校2年生体験学習 (6月16日)



現の証拠

斎庭の草花⑧
—ゲンノシヨウコ—

花期 七月～十月
草丈 30cm～50cm
生育地 草地
分布 北海道・本州・四国
九州・沖縄

ゲンノシヨウコはフウロソウ科の多年草で草地や道端に生えています。花の色は白紫と朱紫の二色があり、当社には白紫色のものが多く咲いています。古くからドクダミ、センブリなどと共に薬草として知られ、主に下痢止めや胃薬として使われてきました。花名の由来は、飲んだ途端に効果が出る様子を表していると言われ、「現の証拠」とも言われています。

平成二十八年十一月二十日 撮影
新たな紅葉スポットとして多くの皆さまが足を止めて季節の移ろいを楽しんでいました。

「玉垂」(たまだれ) 第四十八号
題字揮毫 神社本廳元総長 工藤 伊豆
発行 小國神社社務所
郵便番号 四三七一〇二二六
住所 静岡県周智郡森町一宮三九五六一
電話番号 〇五三八(八九)七三〇二
FAX 〇五三八(八九)七三六七
印刷 (有)デザインオフィス エムエスシー

表紙写真について

○「玉垂」四十八号をお届けいたします。
近年、カメラ女子と呼ばれる女性が一眼レフを携え、紅葉の季節に多くご参拝にいられています。女性が持つ繊細やかな感性で被写体を見つけて撮影されていること存じます。当社写真コンテストにも是非、ご応募下さい。

○今年も縄巻修巳様による奉納紅葉野外コンサートが行なわれました。ご神域と調和した癒やしの音色が多くの皆さまを魅了しておりました。

編集後記



縄巻修巳氏による
奉納紅葉野外コンサート(11月23日)